

九州運輸局メールマガジン
平成 21 年 12 月 25 日 第 63 号（発行日：毎週金曜日）
～九州の明日を拓く運輸と観光～
九州運輸局 H P アドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

今週も九州運輸局メールマガジンをご覧いただきありがとうございます。

目次

- 1．九州運輸局ホームページアップ情報（12月18日～12月24日掲載分）
 - 入札・契約情報
 - 行政処分状況
 - バス・タクシー・トラック
- 2．お知らせ
 - 平成20年度「NASVA交通遺児友の会」作文コンテスト入賞作品集を作成
- 3．現場レポート
 - マリンワーク in 唐津（1日船員職安）
- 4．九州運輸局セミナー
 - バス事業に関する紹介
- 5．リレーコラム
- 6．編集長だより

【九州運輸局ホームページアップ情報】（12月18日～12月24日掲載分）

入札・契約情報

- ・契約結果に係る情報の公表（随意契約：平成21年11月分）
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/keiyaku_kekka/0911.pdf

行政処分状況

- ・自動車整備事業者の行政処分状況
<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/seibi/seibi.htm>

バス・タクシー・トラック

- ・タクシー特定地域協議会（長崎・宮崎・鹿児島運輸支局分追加）
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/jidousya_k/file18.html

【お知らせ】

平成20年度「NASVA交通遺児友の会」作文コンテスト入賞作品集を作成

独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）では、交通遺児とその家族を会員とした「自動車事故対策機構交通遺児友の会」を設置し、交通遺児等の健全な育成に寄与する様々な活動を行っていますが、今般、友の会の活動の一環として、平成20年度に実施した作文コンテストの入賞作品集を作成しました。

作品集には全応募数286作品から厳正なる審査を行って選出された最優秀賞（国土交通大臣賞）をはじめ優秀賞4作品、金賞4作品、銀賞12作品、銅賞52作品の計73作品が掲載されています。

遺児たちが今、何を思い、考えているかが伝わってくる作品ばかりで、自動車

事故を起こしてはならないという決意を新たにできるはずです。
最優秀賞と優秀賞作品は、次のURLからご覧になれます。
http://www.nasva.go.jp/gaiyou/pdf/2009/090319_01.pdf

作品集は非売品ですが、NASVA各支所で閲覧することができ、また、数に限りがありますが、支所で作品集を配付しているそうです。
詳しくは各支所へお問い合わせ願います。

各支所の連絡先等は次のURLから
<http://www.nasva.go.jp/gaiyou/shozai.html>

【現場レポート】

マリワーク in 唐津 (1日船員職安)

九州運輸局では、12月16日、佐賀運輸支局(唐津庁舎)にて、「マリワーク in 唐津 (1日船員職安)」を開催しました。

佐賀運輸支局(唐津庁舎)は、船員職業紹介業務を行っていないため、佐賀県東部地区在住の求職者の方は九州運輸局(福岡市)へ、佐賀県西部地区在住の求職者の方は佐世保海事事務所(佐世保市)での手続きをお願いしています。そこで、求職者の利便性を図るとともに積極的な職業紹介を目的に、佐賀県及び長崎県東部在住の方を対象として、求人情報の提供や職業相談等を実施しました。

当日、会場を訪れた求職者は11人。退職したばかりの船員さんや高齢の船員さん、陸上の仕事から初めて海運関係の仕事を探しに来た方など、色々な方が訪れました。会場に設置した全国の求人情報を一覧できるパソコンを挟み、当局職員と希望にあった船種や職種などの求人情報を熱心に探したり、海技資格取得などを含む様々な職業相談を行いました。

この「マリワーク in 唐津」の周知文書を唐津市役所や佐賀県内のハローワークなどで掲示していただいたこともあり、海上の仕事がしたいがどこでどうやって探してよいか分からないといった求職者の方にとって大変有意義な機会になったと思います。
また、求職中の船員さんにとっても唐津での船員職業安定業務の実施は、パソコンによるリアルタイムの情報が得られ、大変な好評を得ました。

全国の船員数は、1974年の約27万8000人をピークに逡減していき、2008年には約26%の7万3000人まで減少しています。
陸上労働に比べ、海運業界の有効求人倍率も未曾有の落ち込みを見せている昨今ですが、海上輸送に不可欠なヒューマンインフラの確保として、船員の離職者対策にマリワーク等様々な形で積極的に取り組んでいきたいと思ひます。
(海事振興部船員労政課・佐賀運輸支局)

【九州運輸局セミナー】

バス事業に関する紹介

皆様は、バスを日頃から利用されていますか？

九州内には、高速バス、路線バス、コミュニティバス等様々なバスが走っています。

旅客第一課では、その運行に際して必要となる路線、ダイヤ等が道路運送法に基づき、バスが安全・安心に運行できるように適切に計画されているかを審査

し、適切にアドバイス等を行っています。

また、バス事業者が取り組んでいる利用者サービスの向上に向けた創意工夫を行い、バスの利用促進・活性化に努めているＩＣ方式の共通乗車カードシステムの導入やバスロケーションシステムの充実、１００円バスや高齢者割引をはじめとした運賃の弾力的な運用などについても対応しています。

さらに、自賠責保険に未加入のまま、走行し事故を起こした車両について加害者が損害を負担できない分を国が一旦立替えたものを回収するという業務も行っていきます。

その他には、平成１９年１０月に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく「地域公共交通活性化・再生総合事業」という業務を行っています。

この事業は、市町村が当該区域内について地域公共交通の活性化及び再生を総合的かつ一体的に推進するための計画（地域公共交通総合連携計画）を作成し、試行錯誤しながら自立していただくために連携計画を作成後、３年にわたり支援するというものです。

この総合連携計画は、バス、鉄道、旅客船と様々なモードが対象となっておりますが、特にバスモードが全体の８０％以上を占めています。

現在、少子高齢化や過疎化が進んでいる市町村にとって乗合バス事業者が不採算による撤退後を含めて地域住民の足を確保することは、喫緊の課題となっております。

そのため、九州管内では、計画事業５０件中４１件がバス（複数モード含む）モードとなっており、各県にある運輸支局の担当官を介して市町村に対し、連携計画を策定後、３年間を上限に支援し、また、バスの運行方法や法律の手続き等をアドバイスしております。平成２１年度は、乗合バス事業者による運行、いわゆるタクシー事業者による乗合タクシー、市町村の自家用車による市町村有償運送とあらゆる形態での計画が実施されています。今後、九州管内でも、市町村合併後の交通体系を確立するために多くの市町村が連携計画を作成し、当該補助を利用していただくことと思いますので少しでも皆様のお役に立てる支援を今後も行っていきたいと思っております。

（自動車交通部旅客第一課）

【リレーコラム】

私の生まれ育った故郷は宮崎県東臼杵郡東郷町（現在は日向市東郷町）であるが、その同郷の歌人に若山牧水がいる。先日、山口県山口市にある香山公園に行った際に国宝・瑠璃光寺五重塔の近くの木立のなかに牧水の歌碑「はつ夏の山のなかなるふる寺の古塔のもとに立てる旅びと」が建立されているのを見つけたが、牧水もこの地を旅したことがあるのか気になって、調べてみた。

牧水は、明治４０年６月に東京から宮崎への帰省の途中、旅行をかねて中国地方に立ち寄り、岡山、高梁、新見、宮島を経て山口の瑠璃光寺に至っている。岡山と広島の間境である新見市哲西町に来た際、遠くまで続く山々を見た時、その美しさに感動して詠んだとされる「幾山河こえさりゆかば寂しさの はてなむ国ぞけふも旅ゆく」はよく知られています。この後に、中国地方で詠んだ歌の最後に瑠璃光寺で２首詠んでおり、２首とも歌集「海の声」に収録されていますが、その内の１首が牧水夫人である若山喜志子の書による歌碑として昭和３９年６月に建立されたとのこと。歌碑は全国に約３００位建立されており、今でも増えているそうです。牧水の命日である９月１７日には、生家の近くで歌碑祭や献酒などを行う「牧水祭」が毎年開催されています。また、牧水の母校である坪谷小学校では、児童全員が登校時に校門のところで牧水の歌を詠み上げており、この様子を１５年位前にNHK・BSの番組がとりあげ、私の甥っ子が歌を詠んでいる姿がブラウン管にクローズアップされたときにはびっくりしたのを覚えています。興味がある方は機会があれば是非一度、自然がいっぱいの奥日向の地に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。牧水生

家の周辺には牧水に関するいろいろなイベントを行っている牧水公園や牧水記念文学館などがあり楽しむことができます。因みに、交通アクセスはJR日向市駅で下車し、バスに乗り換え、神門（みかど）行きの宮交バスに乗車して牧水記念館前で降りることになりますが、バスの本数が少ないため前もってダイヤを確認しておくことをおすすめします。なお、時間的には自家用車だと日向市駅前から35分くらいです。
（自動車交通部次長 橋口 光義）

【編集長だより】

本号が今年最後のメールマガジンとなりました。早いもので来週には新年を迎えます。前号ではお雑煮について書きましたので、今回はお正月の縁起物について述べたいと思います。

まずは門松です。これは歳神を迎える依代（よりしろ）として家々の門口に立てて飾る松です。次に注連縄（しめなわ）ですが、ここは歳神をお迎えする神聖な場所という意味が込められています。続いて鏡餅です。実はこれは縁起物の集まりです。鏡は魂を映し出す神器とも言われています。二段重ねの餅は、円満に年を重ねるという意味が込められています。餅の大きさが違うのは、陽の太陽と陰の月を表していて、福德重なるという意味が込められています。その他にも年越し蕎麦、除夜の鐘、初日の出、初詣、お節料理、お屠蘇、お雑煮、お年玉、お年賀等々数えきれないほど有ります。この中で門松だけは飾ったことが有りません。理由は簡単です。後かたづけが大変だからです。若い頃は縁起には全く無頓着でしたが、年を重ねる度に少しずつ縁起を担ぐようになりました。これをしないと気持ちが落ち着かないのです。時代は変わっても日本の正月文化はこれから先もずっと受け継がれていくのではないのでしょうか。良いお年をお迎えください。

新年は1月4日と5日の2日に亘って局長、次長をはじめ各部長の年頭の辞を掲載した号外を発信する予定です。

皆様のお知りになりたい情報・ご意見・ご要望等をお聞かせください。
編集部ではできる限りご要望にお応えしたいと思います。
下記のメール又はファックスからお気軽にお寄せください。

九州運輸局メールマガジン編集長（九州運輸局総務部広報対策官）

森 益隆（もり ますたか）

mail : mm-kyushu@gst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

バックナンバーは、次のURLに掲載しています。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html